

里地里山保全再生モデル事業（神奈川県秦野地域）
試行事業に向けた意見交換会（渋沢地区）議事概要

日時 平成17年6月23日(木)19:00～
場所 渋沢公民館 会議室

参集者

里山保全団体	生産組合長代表(欠)
まほろば里山林を育む会	森林組合
秦野雑木林を守る会(欠)	農業委員
渋沢生き物の里	西
共有林組合	南
渋沢	西地区住みよい町づくり運動推進委員会(欠)
千村	農協西支所

質疑（事業概要について）

- ボランティアで山の整備をていくというのは、「荒廃農地解消市民ボランティアの会」と同様の仕組みで山もやっいていこうということなのか。

【市】そうです。今、ふれあいの森づくり事業で助成している里山保全団体は13団体あるが、もっと面積を増やして欲しいし、新しい団体にも活動してほしい。そして昔のような里山になっていけばよいと思っている。ボランティアだけでは無理なので森林組合や地権者の方にも協力してもらって進めていきたい。里地の方も絡めながらやっていきたい。

- 農地の保全（荒廃農地解消等）は今後、こちらの事業でやっていくのか。それとも、今までの関係機関が一本になってやっていこうということか。あちらこちらの部署で似たようなことされると混乱する。アグリサポートとかいうのも行われているが。

【市】関連機関が連携し里地里山保全策を一本化するという。森林づくり課が旗を振っても畑のことはできないので、そこは専門の農業委員会と連携する。農地に関しては、これまで農協と農業委員会と市、現在はそれぞれにやっている。そうではなくて連携して、農地の関係はやっていることを互いに調整しあって一本化してやっていくために、組織化を進めている。

実践フィールドについてと作業実施について

- 渋沢丘陵でもまだ手入れの行き届かないところがあるので、活動に参加してくれる人が増えたらありがたい。エコツアーのようなこともできればよいと思う。

- 震生湖の周りあたりを整備するとよいのではないか。震生湖の周りの山で、道に枝が張っているところがある。そこをして欲しいということで出せば、してもらうことが可能なのか。

【市】候補地としてあげてもらえば、まず現地に伺う。ただし246号線が通るところは難しい。

- 「若竹の泉」の近くの田んぼに、水生生物観察園として活用していた所があって、その整備をしたい。実は既に地権者から了解をもらった。会って現地視察をしたところ、200mmくらいの管が観察園をまたがっているのだが、地すべりか何かで破損して汚れた水が流出している。そこにいるカワニナは汚れのない上の方へ移動している。管の修理をして整備をしたい。修理はお金がかかるが、助成金などはどこからかもらえるのだろうか。場所は諸星工務店の前で諸星さんの田んぼ。田んぼと急斜面の間に清水が流れていて、トンネルから流れ出た水と合流している。

【市】修理については市の方で一度現地を見に行つて所管課を調べ対応する。

- 「若竹の泉」にはあちこちから水をとりにくる。以前は「若竹会」が野菜を売るなどしながら維持管理してきた。穴の中にはいって、流れる水をパイプで引いているがその維持管理を狭い穴の中に入っていたが、高齢化で解散した。その後、水が出なくなることがあって水を採りにきた人が農家に苦情を言ったそう。今、区で管理をどうしようかと言っている。どうにかならないものか。

- 「秦野のホタルを守る会」という会があり、許可を得て看板を立てているが、あの会には農家の人はいない。多くの人が蛍鑑賞にきているが、生息環境を守るのは、結局農家の人。それはどうかと思う。

ボランティアの参画方法について

- ・ 里山でのボランティアの市民の関わり方としては、始めは落ち葉かきがよいだろう。楽しく関わることができ、その準備ということで草刈りも進む。
ある農家は落ち葉を集めてうちの牛糞と発酵させて使っている。野菜の色が違う。
- ・ 荒廃農地解消市民ボランティアの会の活動は大体土日。二班に分かれ、解消作業と作付け管理を行う。一回20名くらい参加があり、市外からも参加、家族や若い人も参加している。ボランティアリーダーと班長を設け、組織的に、また交流しながら進めている。山の方もそのような形でできれば成果があがるだろう。ただし農地のほうのボランティアは非農家ばかり。実際には、農家や農家の師弟が入っていない。その辺の問題はあると思う。
- ・ 農業のボランティアの方々に、山の方に応援に来て頂きたい場合はどうだろうか。山と農地とお互い協力できないか。
- ・ 【市】市では、くずは青少年野外センターを改築し宿泊施設も新しくし、青少年の活動の他、里山保全活動の拠点としても活用する計画にしている。荒廃農地解消市民ボランティアについても、市内外から土日に来る人などは泊まれるようにしてはどうか。そうすれば秦野に経済的効果もある。
- ・ 市民農園などで外部から来る人は、農作業だけでなく、秦野の環境、景観がよいからくらし。渋沢丘陵は丹沢山地が見えるので景観などの面で条件がよい。

来る人が増えると駐車上の問題が出てくる。
駐車料をとる。そうすれば経済効果もあがるだろう。
震生湖の駐車場を使ってもらえば、トイレもつくらしい。

学校との連携、環境学習の場としての活用について

- ・ 渋沢小学校の学校林として活用している西端共有林では、まほろばの里山林を育む会で昨年落ち葉かきをしたところ、ヤマツツジ、キンラン、ギンランが咲いた。実にすばらしい。子どもたちも初めて見た。里山を整備して頂くと子どもたちも活動もしやすく、行きたくてしかたないようだ。子どもたちは実際に自分たちで様々なことをやってみたい、というので、させて頂けるなら、やらせてほしい。落ち葉かきなら子どもにもできるのでさせたい。
- ・ 子どもには体験させないと、遠ざかってしまう。私の家で、牛の絵を書かせて欲しいと南小学校から依頼がきた。今の子どもは、臭いからと、2,3人は近寄れない子がいる。学校教育か家庭教育のせいか・・・。
- ・ 家庭の教育に問題がある。体験をすれば楽しいことが分かる。体験させて壁を越えさせること必要。
- ・ 渋沢幼稚園では田植えから稲刈りまで体験させているが、親たちは見てるだけ。クズかきも幼稚園でやっている。
- ・ お父さんお母さんの教育は必要だと思う。サツマイモの栽培で、子どもが苗植えの体験でやってきたが、畝の上を走りまわって台無しにしてしまった。それを注意した親の言葉は「叱られるからやめなさい」だった。そうではなく「作物がかわいそうだから」というようなたしなめ方をしてほしかった。体験は、そのような認識の違いを距離を縮めるいい場になるのではないかと思う。
- ・ 休耕田で学校の体験教育で稲づくり収穫して食べるというのは、しても良いのか。
今は減反政策がなくなったので構わない。学校が農家から農地を借りるのは問題あるが、地主が自分で体験させる、ということで行うのは問題ない。
- ・ 農業体験などを受け入れる場合、作付けの管理や肥料はどうする。
だれか農家の人がリーダーとなってボランティアを何人かつけてやればよい。体験料をとって、肥料代をまかない、その代わりに体験者には作物を農家から分けてあげればよい。
- ・ 昨年の6月小田急で子どもの作文を募集し、渋沢小の5年生が頭高山のことを作文にして表彰された。すばらしい文章だった。その子どもは横浜から引っ越して渋沢に住んでいるので、渋沢は第二のふるさとだと。西端共有林でも活動についても書いている。

情報発信の中でそのような子どもたちの声も発信していけたらよい。その情報発信によって里地里山に関わることのメリットが伝わるとよい。